

『ミス・ダンデライオン』 金久保知貴

青年が登場。手には本を持っている。

青年     彼女はタンポポのようでした。風が吹いたら飛んでいく。風の方へと飛んでいく。  
気がついた時にはもう遅い。彼女は僕のそばにいないのだ。だから僕は本を書いた。  
彼女のことを書いた、彼女のための本を——。  
表紙を捲ると、そこにはこう書いてあります。

青年が本を開く。読み始める。

青年     「私はタンポポ。私は軽くて飛びやすいから、ずっとあなたのそばにいることは  
出来ない。風は休まずやってくるから、私も休まず住処を見つけるのです。」  
本のタイトルは『ミス・ダンデライオン』。  
彼女の名前はネモ。ネモはとても可愛らしい。有名なアニメキャラで例えるなら  
ドラえもんのようにです！

ネモ     フフフフフ……（可愛らしく）

青年     彼女です！

ネモが登場。（ネモはタンポポの妖精）

青年     こんにちは。

ネモ     こんにちは。ウフッ。（と微笑む）

青年     これ。

ネモ     なにこれ？ 私にくれるの？

青年     うん。

ネモ     ありがとう。じゃあ頂戴—— ……キヤー！

青年が本を差し出したその時、強い風が吹く。ネモが飛ばされる。ネモが退場。

青年     その時、風が吹いた。僕と彼女を突き放す悪魔の風が……。残念ながら、渡しそびれてしまいました。でも彼女は風に乗ってまたここに来る。  
その時のために、この本はここに置いていきます。

青年が本を地面に置く。立ち去ろうとする。そこへネモがやってきて本を拾う。ネモは青年を想い、青年もまたネモを想っている。〈幕〉